



01.片貝虚空蔵尊鰻池の前で「うなぎパイ」を食す 02.片貝虚空蔵尊外観
03.虚空蔵尊門前の鰻池。かつてはこの池にウナギが奉納されていた
04.「地域の文化を大切にしたい」と松本さん

東片貝町の片貝虚空蔵尊にはウナギを食べると罰が当たるといふ伝説が。「ウナギおいしいのに…」そんな気持ちで、虚空蔵尊の世話人代表・松本さんに話を伺いました。その昔、この地域で洪水が発生し、人々の信仰の対象であった仏像の虚空蔵菩薩が流されそうに。しかし、ウナギが虚空蔵菩薩にぐるぐる

その伝説
ウナギが人々の救世主?!
—片貝虚空蔵尊

と体を巻きつかせ、洪水から守ったというのです。以後、ウナギは虚空蔵菩薩の化身として人々の信仰を集めました。今もこの地域にはウナギを食べない人が多くいます。「伝えたいのは、ウナギを食べないことではなく食べ物に感謝する気持ち」。松本さんは、伝説を地元の子どもたちへ語り継いでいます。

「飛石」という名の由来は赤城山から飛んできたという石（最近の研究では、浅間山の噴石が泥流に乗り流れ着いたと報告されています）。岩神稲荷神社を管轄する前橋東照宮宮司の瀬尾さんによれば、その昔、石工たちが飛石から石材を取ろうとすると、石から濃血があふれ、石工たちの手足がまひしたり、両目を失明したりしたそう。以来、飛石は神として祭られるようになりました。国の天然記念物にも指定されているこの飛石、バランスが悪く倒れそうに見えるかもしれませんが、今までの地震でも動いていませんのでご安

その伝説
神になった石?!—岩神の飛石



01.赤みを帯びた岩肌 02.飛石を祭る岩神稲荷神社 03.「自然の力は偉大です」と瀬尾さん

心。石は地下約10メートルまで埋まっている、GPSで年2回、位置がずれていないか確認しています。歴史ある物を後世に残すことの大切さと大変さを感じますね。伝説は個性豊かに地域の歴史文化を語ってくれます。あなたも身近な伝説の地を訪ね「前橋再発見」してみませんか。

取材の様子はフェイスブックでも
今回の取材の様子はフェイスブックにも掲載中。紙面に収まりきらないワカモノ記者の取材日記を、ぜひご覧ください。(川田)



REPORTERS OF YOUNG FOLKS

知られざる前橋がそこに
伝説の地を訪ねて

ウナギを食べると罰が当たる…。皆さんはこんな言い伝えを聞いたことがありますか。前橋には、さまざまな伝説や言い伝えが残っています。そんな前橋の伝説をワカモノ記者が追いました。担当は馬持沙織・遠藤敦美・奥田柳太郎・川田和樹・田中慧・渡辺楓
図 文化財保護課 ☎ 027-280-6511



市民が作る
市民編集のページ
Vol.120

用水の工事中、大岩に突き当たり困り果てた農民。そこに山伏姿の男が現れました。男が岩を取り除く方法を伝授し、用水は無事完成。農民たちは男が天狗に違いないと信じ、その後、この用水を「天狗岩用水」と呼ぶようになりました。利根川の水を総社地区に取水する「天狗岩用水」。慶長7(1602)年から3年にわたりこの開発を進めた領主・秋元長朝は、農民への援助を惜しまぬ人物でした。農民も長朝を慕い、転封後100年以上経った安永5(1776)年に力田遺愛碑を建立しました。地区の歴史に詳しい関口さんによれば、領主が農民に尽くし、農民が領主を慕う関係は全国的にも珍しいとのこと。現在総社地区では、2年に1度、秋元氏をたたえる武者行列が行なわれます。総社の人々の温かさや誠実さにより、受け継がれている歴史がありました。

その伝説
用水工事に天狗が力を貸した?!
—天狗岩用水

まだまだ伝説の地は他にも

今回の取材のきっかけは、昭和49年発行の「前橋の伝説百話」という本との出会い。この中には、今はもう見られなくなった地域の様子も紹介。この本は、市立図書館で借りることができます。



01.護岸された天狗岩用水を歩く 02.総社の農民が領主に感謝し建てた力田遺愛碑(光厳寺) 03.取材した総社歴史資料館ではタブレット端末などで地区の歴史を紹介 04.「地域の歴史を伝えるのが生きがいです」と関口さん



編集後記

「取材後はうな重を♪」と思っていましたが、「うなぎパイ」で我慢。伝説の影響力を体感。(奥田)



前橋に残る歴史や伝説の地、皆さんもぜひ、現地に足を運んでみてください。(馬持)



伝説を伝えようとする地元の皆さんの熱心な思いに感激しました。(田中)



地元の皆さんの秋元氏に対する感謝の思いの大きさに驚き!素晴らしい関係ですね。(渡辺)



近所の飛石が天然記念物だったとは。身近な物に目を向けることも大切。(遠藤)

